

## さらば外来種

## 池の水抜き撃退

## 都の「かいぼり」記者も参戦

東京都が都立公園で池の回復させる狙い。2018水を抜いて泥などを除去す。年度は11月以降、8公園の「かいぼり」に取り組む。10カ所の池で実施する予定。外来種の駆除と水質改善を進め、生態系をに石神井公園の水辺観察園



池に残った生物などをすくい上げる参加者ら  
(17日、東京都練馬区の石神井公園の池)

## 石神井公園 シナヌマエビ4000匹発見

(練馬区)で行われたかいぼりに記者も参加した。●関連動画を電子版に

かいぼりはもともと、農業用水のため池の水を農閑期の冬場に抜き、堆積したヘドロや土砂を取り除くものだった。現在は都会の池でも外来種の駆除や水質改善のために行われている。都によると、都立82公園のうち48公園に約1000の池がある。都は18年度、予算約2億円をつけて神代植物公園の本園池(調布市)や小山内裏公園の内裏池(八王子市)など10カ所で行われ、長年外来種に悩まされている。

記者を含め参加者は、かいぼり事業を受託するNPO法人「生態工房」の片岡友美さんの講義を受けた後、胴長に着替え、数日前から水が抜かれている池の



バケツを手に池でみつけた魚の説明をするスタッフ。奥は外来種のブラックバス(17日、東京都練馬区の石神井公園)

中に入り、残った生物を救出する作業にあたった。作業の終了時刻が近づいたころ、記者はブラックバス(正式名称・オオクチバス)を捕獲した。オオクチバスは生態系に悪影響をもたらす特定外来生物で魚やエビなどを食べる。「池の食物連鎖の頂点にいるオオクチバスが1匹でもいるというのは問題だ」と片岡さん。全長17・5センチ、17年生まれの個体だった。16年のかいぼりの後、オオクチバスはいなくなったと思われていたという。

16年にはほとんど確認されなかった外来種のシナヌマエビが今回は約4千匹も見つかった。鳥のエサとして人が故意に放流した可能性が高いという。片岡さんは「かいぼりは生態系回復の万能薬ではない。1回だけで終わらせず続けることが重要だ」と話す。

全国30カ所以上でかいぼりを行ってきたNPO法人「birth」の久保田潤一さんは、かいぼりへの理解が広がっていることを評価する一方、「水辺の生物にとってかいぼりは死に直結し、劇的な効果方を求める。実施には慎重さも求められる」と指摘している。